

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆国の利払い費、金利1%上昇で8.7兆円上振れ 財務省試算

・財務省は4日、長期金利がこれまでの想定より1%上がった場合、2033年度の国債の利払い費がさらに8.7兆円増えるとの試算をまとめた。日銀がマイナス金利政策を解除し、長い目で見ると金利には上昇圧力がかかる。税収の増加も見込まれるが、社会保障費など予算の膨張を防ぐ取り組みが必要になる。

◆日銀4月景気判断、7地域で引き下げ 2地域は据え置き

・日銀は4日、4月の地域経済報告(さくらりポート)を公表。全国9地域のうち、東北、北陸、関東甲信越、東海、近畿、中国、九州・沖縄の計7地域の景気判断を引き下げた。北海道と四国の2地域は前回(2024年1月)から据え置いた。引き上げはゼロ。前回の報告では東海、九州・沖縄の2地域の景気判断を引き上げ、近畿のみを引き下げ、その他6地域は据え置いていた。

◆中小賃上げ平均4.69% 連合3次集計、92年以来の高水準

・連合は4日、2024年春季労使交渉(春闘)における回答の第3回集計結果を公表した。組合員数300人未満の中小組合では基本給を底上げするベースアップ(ベア)と定期昇給を合わせた賃上げ率が平均4.69%で、過去の最終集計と比べると1992年以来的の高水準となった。全組合の平均は5.24%だった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆パナソニックが「再生家電」 循環型モデル、3割安く

・パナソニックは販売後すぐに不具合が見つかった家電を修理した上で「再生品」として販売する事業を始めた。価格は新品より3割ほど安く設定し、1年間の保証をつける。日立製作所や米アップルも廃棄予定の「電子ごみ」を減らす活動に取り組む。投資家や消費者が環境に配慮した循環型経済を重視しており、日本企業の対応が広がりつつある。

◆国交省が工期に関する新基準 受注者側の責務を明記

・国土交通省は工期に関する新たな基準を公表。4月から建設業で罰則付き時間外労働規制が適用されることを踏まえて見直したもの。新基準では時間外労働規制の遵守を前提に、受注者側・発注者側の双方に、適切な人員や工程ごとの工期を踏まえた工期設定を行うよう記載。通常必要な工期よりも著しく短い工期で請負契約を締結することは行わないよう明記。

◆建築木材需要量が減少 国内自給率は増加—林野庁23年度調査

・林野庁が公表した2023年度の建築物における木材の利用に関する調査結果によると、23年度の建築用材などの総需要量は3608万3000m³で、前年比で39万m³の減少。国内生産量は1784万9000m³で前年比32万7000m³の増加。国内自給率は49.5%で、前年比で1.5ポイント上昇。木造率は低層住宅で82.6%、中高層建築物では住宅・非住宅ともに0.1%以下に。

《 注目商品 》

■シャープ、大風量とやさしい運転音を両立したプラズマクラスターサーキュレーター

・最大30畳までの室内の空気循環を可能にする大風量と、やさしい運転音を両立したプラズマクラスターサーキュレーター<PK-18S01>を発売。「フクロウ」の翼形状を応用した新開発のファン「ネイチャーウイング」を採用。フクロウの羽ばたきのようなやさしく力強い風を生み出す。



■立川ブラインド、木製ブラインド「フォレティアエグゼ」「フォレティア」

・「安心・安全・快適」に『環境』を加えた4つのポイントをコンセプトに、人気の木製ブラインド「フォレティアエグゼ」「フォレティア」をリニューアルし、5月1日発売。木材などの天然素材を使用することで、癒しの空間づくりやストレス軽減に役立ち、“ウェルビーイング”の向上に繋げる。



■マックス、結束スピード1.4倍、0.5秒の鉄筋結束機

・住宅基礎や鉄筋コンクリート構造物における鉄筋結束作業を効率化する充電式鉄筋結束機「ツインタイヤRB-442T」を発売。結束スピード1.4倍、1回の結束スピード0.5秒を実現。「ワイヤ装てんアシスト機能」によりリリースボタンを押さずにワイヤ交換が簡単にできる。

